

# 楽しいキャンドル(作り)

オリジナルのキャンドルが  
作れます!!

製作時間 1~2時間

※製作時間は個人差によって  
異なる場合があります。

## セット内容

- ・ 手作りキャンドルキット . . . . . 10セット  
(パウダーキャンドル230g、座金付き芯糸4、  
色つけ用スティック青、ピンク、黄、赤)
- ・ 湯せん用容器 . . . . . 1ケ
- ・ 湯せん用容器ポット(フタ付) . . . . . 1ケ
- ・ はし . . . . . 1袋
- ・ ハサミ . . . . . 2ケ
- ・ プラカップ . . . . . 3ケ
- ・ 竹くし . . . . . 1袋
- ・ バット . . . . . 1ケ
- ・ ミニカッターナイフ . . . . . 1ケ
- ・ ポスター . . . . . 2枚

※1つのキャンドルキットで3~4個のオリジナルキャンドルが作れます。  
※ポット、お湯はお客様で御用意下さい。  
湯せん容器が大変あつくなるので、ご注意下さい。

作り方は別紙をご参照下さい。

お客様御用意の物(基本セット)「☆」は、必ず必要な物  
シートキャンドル、モザイクキャンドル、雪だるまをお使いになる場合は別紙をご覧ください。「・」は、あると便利な物

☆ポット、お湯(パウダーキャンドルのジェルを溶かす時に必要となります。)

- ・ 作業用テーブル(組立等の作業が床等でできない場合必要となります。)
- ・ テーブルクロス、新聞紙等(テーブル・床等を汚さないため)
- ・ クッキーの型
- ・ アルミホイル(アルミカップ)
- ・ 小さい包丁(大人の方が安全にご指導下さい。)

————イベントをスムーズに進行させるために————

- 同時進行の場合は、5人前後がのぞましい。なお、多人数で同時進行の場合  
は湯せん容器等をお客様で御用意下さい。
- お湯は5分置きを目安にかえて熱い状態を保って行くとスムーズに進行  
できます。

## はじめに

キャンドル作りは、湯せんにかけたりしますので、コンロがある台所で作業すると便利です。また、ロウが垂れることがありますので、作業台には新聞紙を敷き、エプロンをして作業して下さい。作業後に残ったり、失敗したキャンドルは再度溶かして使えます。少量であっても排水パイプに詰まる原因になりますので、流し台などには捨てないで下さい。

### 準備するモノ(基本セット)

手作りキャンドルキット(パウダーキャンドル、座金付き芯糸、色付け用スティック4色)

湯せん用具(湯をはる大きい鍋と、ロウを溶かす小鍋もしくは空き缶、温度計)、割り箸、白皿、はさみ、エプロン、新聞紙

## きほん

### -溶かし方-

右図のように鍋等にパウダーキャンドルを入れ、湯せんにかけて溶かします。湯せんにかけた時、ロウの鍋の中に「湯」が入らないように気を付けて下さい。ロウを入れる容器は、取っ手の付いた鍋が便利です。空き缶でもできますが、型に流し込む時に熱いので軍手を使用して下さい。危険ですので絶対に直火にはかけないで下さい。

★香りをつける時は、溶けたロウの中にエッセンシャルオイルを数滴入れて下さい。

### -色の付け方-

カラースティックをカッターナイフ等で細かく削ります。溶けたキャンドルが80~85℃になったら、少しずつ入れて箸でかき混ぜます。少量でも色が着くので、一度にたくさん入れず、少しずつ入れて下さい。少量を白い皿にとり、固まったロウの色の濃さ、色合いを見ながら、好みの色になるまで繰り返して着色します。

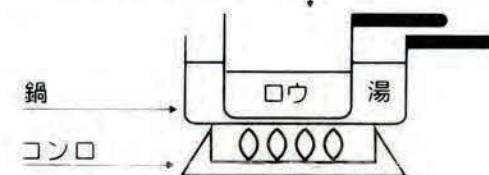
### -ロウの使用量の目安-

**作りたいキャンドルの体積×0.85=必要なロウのg数**

例えば、作るキャンドルが5cm立方体の場合、 $5 \times 5 \times 5 \times 0.85 = 106.25$ gになり、約110gのロウが必要になります。

但し、雪だるまのように泡立てる場合は、泡立てることで空気を含むので、この計算よりも少ないロウの分量で作れます。★キャンドルキットのパウダーキャンドルは230g入りです。

鍋(必ず水平にして使用下さい。)

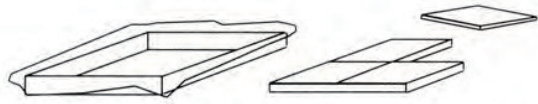


溶かしたロウの温度は、70℃くらいが作業しやすい温度です。

## 作り方

### -シートキャンドル-

上記の基本セット、キャンドル流し込み用バット(四角い缶、弁当等浅くて平らなもの)  
アルミホイル、竹串、カッターナイフ(又は包丁)、定規

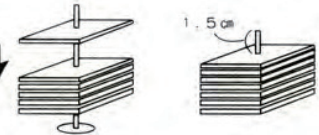


1. 四角い缶、弁当のフタ等にアルミホイルを密着させ、好みの色に着色したロウを厚み0.6cm程に流し入れます。ロウがヨウカン位の硬さになったら、定規をあてながら、5cm角にカッター(又は包丁)で切ります。  
(この時、クッキーの型で抜いても良いです。)  
残りのロウは、後で使うのでそのまま湯せんにかけておきます。



2. アルミホイルから外し、中心に熱した金串を通して穴をあけます。串をさす時は、手を突かないように気を付けて下さい。

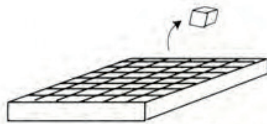
シートをいろいろな色で作っても楽しいよ!



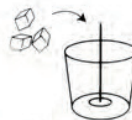
3. キャンドルが固まったら、芯糸にシートキャンドルを通し、図のように芯糸を1.5cm残して切って、出来上がり!

### -モザイクキャンドル-

上記の基本セット、キャンドル流し込み用バット(四角い缶、弁当のフタ等OK)  
アルミホイル、カッターナイフ(又は包丁)、定規  
キャンドルの型(紙コップ、500ml牛乳パック等OK)



1. 湯せんに溶かしたロウのうち、6割程を好みの色に着色して、「シートキャンドル」の要領で、厚み1cmのシートを作ります。ヨウカン位の硬さになったら、定規をあてながら、1cm角にカッター(又は包丁)で切ります。



2. 紙コップ、牛乳パック等の容器の中心に、芯糸をまっすぐに立て、1で作ったキューブを入れます。



3. 1で残しておいたロウをキューブがひたるくらいまで、注いで下さい。固まると、かさが減るので、減った部分にもう一度ロウを流し込みます。固まったらカップを破り、型から取り出します。図のように芯糸を1.5cm残して切って、出来上がり!

キューブの色数を増やしてバリエーションを楽しんでね!

### -雪だるま-

上記の基本セット、割り箸、ラップ、輪ゴム、金串、キャンドル泡立て用容器(紙コップ、500ml牛乳パック等OK)  
枝(手に使う分)、帽子用のカップ型(アルミカップ等OK)、シートキャンドルの用意(ハート分)、クレヨン(又はアクリル絵の具)

★1セットで約7センチ(帽子を抜いた胴体部分)の雪だるまができます。



帽子、マフラー、ハート用に50g残しておき、残りを雪だるまに使います。

1. 最初に雪だるまを作ります。紙コップに溶けたロウを入れ、表面に薄い膜がはったら、割り箸で泡立てるようにし、ホイップ状にします。

2. ホイップを2等分し、それぞれラップで包み、口元を輪ゴムでくくります。おおよそ3cmのボールを2個作り、完全に固まるまでおきます。



3. 1の要領でホイップを再度作ります。1で作ったボールのラップを外し、ホイップで2つのボールを接着します。表面全体にホイップを付けてかわいい「雪だるま」にします。完全に固まるまでおきます。雪だるまが、立つように「底」は平らにして下さい。

4. 帽子は、小さなカップに着色したロウを流し、固まったら型から外します。熱した金串で、中心に穴をあけます。型がない場合は、アルミホイルで型を作ってもできます。

5. マフラーは、着色したロウをホイップし、温かいうちに、指でつまんで、首のまわりに押し付け、マフラーを形作ってください。ハートはシートキャンドルの要領で、2mmのシートを作り、温かいうちにクッキーの型で抜くか、カッターでハート形にします。溶かしたロウで、雪だるまに接着して下さい。



6. 雪だるまの中心に、熱した金串を通して穴をあけます。芯糸を下から通し、さらに帽子を通して、ロウで帽子を雪だるまに接着します。穴と、芯糸の間に隙間がある場合は、穴の空いている表面をロウでうめて下さい。串をさす時は、手を突かないように気を付けて下さい。図のように芯糸を1.5cm残して切ります。

7. 「目、ほお」はクレヨン等で描きます。「手」は枝を挿しますが、先に枝をさす場所に金串で穴を空けておく、さしやすいです。「手」をつけて出来上がり!

## 注意

- 作る時の注意/お子さまが作る際には、必ず大人の方が付き添って下さい。火気、火傷には充分注意し、説明書内の諸注意を守って下さい。手持ちの容器に、溶かしたロウを注ぐキャンドルを作る場合は、必ず「不燃性」の容器を使用下さい。
- キャンドルを楽しむために/火を灯したら絶対にそばを離れないで下さい。燃えやすいものが近くにない、水平で安全な場所でご使用下さい。必ずガラス、陶器など不燃性の燭台をお使い下さい。また、容器にロウを流したキャンドルの場合、燃焼中に容器が熱くなる事がありますので、ご注意下さい。本品、作ったキャンドル共に、直射日光の当たる、高温所での保管はしないで下さい。